

第21期第4回常任理事会議事録

日時 昭和55年11月22日(土) 9.45~12.40

場所 気象庁総務部入札室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 荒井, 内田, 杉村, 二宮,
松本, 増田, 村山

報告

[庶務] 1. 10月3日, 文部省学術国際局長事務代理文部事務次官から, 昭和55年度科学研究費補助金「研究成果刊行費」の交付決定について通知がきた。

2. 11月12日, 日本学術会議から, 日本学術会議第80回総会報告(要約)がきた。

3. 11月12日, 日本学術会議会長から, 日本学術会議と学協会との懇談会の開催について, 並びに国際紛争の平和的解決の必要性について通知がきた。

4. 11月13日, 第18回理工学における同位元素研究発表会運営委員会から, 論文募集要領および共催分担金について依頼がきた。

5. 11月17日, 地球化学研究協会理事長から, 1980年度協会学術賞授賞式の案内がきた。

[会計] 9,10月分の会計報告, 56年度予算(案)については, 1月の常任理事会に提案する。

[天気] 11,12月の目次について紹介。アンケートをまとめつつあるが解説が難しいといっている。気候問題の会議についてはシリーズを設けて紹介したい。

[気象集誌] Vol. 58-6号までは旧編集委員会で担当し, Vol. 59-1号から新編集委員会が担当する。インベントリーを岸保理事長名で外国65名, 在外日本人15名の方に出した。

文部省へ来年度700頁として申請書を提出したい。

[学術用語] 計画通り作業が進んでいる。

議題

1. 春季大会運営について

講演企画担当の増田理事から, 春季大会では, シンポジウム終了後, 総会, 続いて各賞受賞記念講演と盛り沢山で時間的余裕がない。一方, WCRPの研究計画を来年秋の学術会議総会で勧告をしてもらうべく現在計画案作成中であるとのことである。従って, 若し適当なテーマがなければ, この計画案を説明するシンポジウムを余り時間をとらずに実施したらどうかとの提案があった。これに対し, 次期春季大会の当番支部である東京大学を代表して浅井理

事が, 東大側では, (1)惑星大気に関するもの, (2)熱帯地方の長周期変動に関するもの のいずれかをシンポジウムのテーマにしたいとの意向が表明された。この件をめぐって多くの理事から意見が出されたが, 結局講演企画と当番である東京大学との間で相談して決めることになった。

2. 評議員との懇談会について

できるだけ早い機会に開催できるよう事務局で調整する。

3. 100周年記念事業について

(1) 学会100年史編纂事務について 担当理事が未決定なので早急に決める必要があり, 欠席している河村理事ではどうかとの大方の意見により小平理事が意向を確めることに次回までに決めることとした。

(2) 記念式典について 100周年記念事業準備委員会で計画立案してもらうことにする。

(3) Regional Technical Conference on Tropical Meteorology について 岸保理事長から7月末にWMOへ照会した手紙の返事がようやくWMOのピーター・ロージャス氏(プロジェクトマネジャー)から次のように返事がきた旨報告があった。
ア. WMOは, 共催はするが金銭の負担はしない。

イ. プログラム, 案内等はWMO事務局で作成する。

ウ. 2人分の旅費(5000ドル)は負担する。

エ. レポートは決めていない。

オ. スピーカーは未定。

カ. プログラムコミティ(気象学会2人, 気象庁1人, WMO2人, USA1人)

気象庁代表 電子計算室長 吉田泰治氏
気象学会

気象研究所台風研究部長 片山 昭氏

〃 台風研究部 村上勝人氏

また, 1982年6月に Study Conference on Impact of Ocean Processes on Global Climate and Extended Range Forecasting を開催することも関係させており, 気象庁主催で, 気象学会, 海洋学会が共催で準備委員会を発足させる。気象学会から松本誠一氏を推薦し, 気象庁からは3人推薦される。

4. その他

- (1) 同位元素研究発表会の論文募集要領および共催分担金について 例年どおり協力する。
- (2) 理科年表の原稿について「天気」編集委員会で検討し原案を出してもらう。
- (3) 第7回(昭和55年度)日産学術研究助成候補者の推薦について 当学会員望月定氏ほかの共同研

究による「自然環境に放出された汚染微粒子(サブミクロン, エアゾル)の滞留時間粒径分布変化・物質組成変化に関する研究」を推薦することとした。

- (4) 「教育と普及」の委員に電子計算室の杉正人氏を追加することを了承した。

その他 藤田郁夫ほか6名の新入会員を承認。

月例会「長期予報と大気大循環」のプログラム

日時 昭和56年3月11日(水) 13.30~16.00

会場 気象庁予報部会議室

発表題目

1. インドにおける夏季モンスーンについて
迎 正秋(気象庁統計課)
2. 1980年冷夏の循環場の特徴
荒井 康(気象庁長期予報課)
3. 海況からみた1980年夏の500mbの循環場について

関根勇八(気象庁海上気象課)

4. 日本の冷夏・寒冬の原因とその予測
須田滝雄(岐阜大学農学部)
5. 気象研の大循環モデル(MRI・GCM)の現状について
時岡達志, 山崎孝治, 谷貝 勇, 鬼頭昭雄(気象研究所)